

町会だより 和田三丁目東町会

2019
1月号 I



新年ご挨拶

和田三丁目東町会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。穏やかな快晴に恵まれ、ご家族お揃いで良いお正月を過ごされたこととお慶び申し上げます。

旧年中は当町会の諸活動に対し、多大なご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

昨平成30年は「災」の字が象徴となるほど、自然災害の頻発した一年でした。6月「大阪北部地震」、7月「西日本豪雨」、7・8月「命が危険な災害級の猛暑」、9月「北海道胆振東部地震とブラックアウト」、そして29本もの台風多発、うち4本は激甚災害指定の超大型でした。首都圏在住の私共も東京での観測史上初の40℃超の高温や45.6mの最大瞬間風速の危険を、身近で体験させられることになりました。

幸いなことに当町会の区域では、参加児童の熱中症懸念で夏休みの「スイカ割り大会」を中止したこと

や、台風24号の強風で数軒の町会員の家の屋根に損壊があった程度でした。自然災害以外でも大きな事件や事故も無く、平穏な年で終えられたと安堵しております。ところが新年早々の3日には熊本で震度6弱の震災があり、幸い深刻な被害は無かったようですが、改元の今年も「災」に象徴される年になるかも知れないとの不安が頭を過りました。

「災」に関しては、ミサイルの領空通過で異常な緊張を強いられた北朝鮮問題が、関係当事国の派手なパフォーマンスにも拘わらず膠着状態のままであり、米中の貿易摩擦は一段と激化して、年末年初には世界経済は株価の乱高下や大巾な円高の状態に陥りました。G5世代の情報システムの覇権争いが即軍事行動に拡大するとは思いませんが、「地平天成」の安寧な世界を念願して「昭和」から改元された「平成」は、象徴の重責を果たされて4月に退位される天皇陛下のご期待にそぐわない、「自国ファースト」横溢の不穏な世界情勢のまま終焉を

迎えそうです。

前述の通り、和田三丁目地域は気象災害には安全な地域ですが、首都直下型地震で発生する火災には、残念ながら極めて危険度が高い地域です。杉並区の最新のシミュレーションでは、当町会エリアではマグニチュード7.3で想定される震度6弱で、焼失家屋が5〜10棟で、エリヤが4ヶ所もあり、和田三丁目全域での避難所利用者は1,500名に達すると予測されています。初期消火訓練や地震ブレイカーの設置促進、杉十小と高南中の震災救援所の立上げ運営訓練に真剣に取り組まねばならない所以です。町会の役員一同は、この諸々の不安を前向きな緊張感に代えて、町会員の皆様の平和で幸せな日常生活の維持継続のための町会活動に注力する所存です。

しかしながら現実的な問題として、町会役員の高齢化によるマンパワーの不足は切実です。端的な課題は現職の2名の民生委員のうちの1名が今年定年となります。この方の後任者の確保が出来なければ、町会の西半分が民生委員空白エリアとなつて、日常生活弱者支援や災害時要配慮者支援の仕組みが

機能しなくなります。幸い東日本大震災以降の8年間は大災害の発生は無く、孤独死事件もありませんが、人材の補充に失敗すれば「いざ」と云う事態への対応が非常に困難になります。地域住民の相互扶助の仕組みは、現状の一部の町会員有志の献身だけでは維持し切れません。希求すべきは町会員の皆様全員に活動にご参加頂き、近隣共助に日常的に関わって頂くことです。この地で永年培われてきた「良き地縁」が、昨今の「自分ファースト」を超越して、思い遣りのある「近隣ファースト」を醸成してくれることを切望致します。

末筆になりましたが、この新しい一年の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成31年 1月吉日
和田三丁目東町会
会長 志達 和雄